

令和4年4月22日

藤沢市長

鈴木恒夫様

議会議長

佐賀和樹

議会報告会「Online カフェトークふじさわ」で出された意見等の提出について

1. 経緯

本市議会は、平成25年2月に制定された藤沢市議会基本条例に基づき実施してきた議会報告会の形を変え、平成28年から「カフェトークふじさわ」を開催してきました。

コロナ禍により対面での開催ができなくなったことから、昨年（令和2年）度に引き続きオンライン形式で「Online カフェトークふじさわ」として開催しました。

市内小中学校から公募し、亀井野小学校、湘洋中学校、鵜沼中学校の児童生徒のほか、藤沢総合高等学校を始めとする市内在住の高校生、そしてカフェトークふじさわの講師及びファシリテーションを依頼している関東学院大学牧瀬准教授のゼミナール生にもトークに参加していただきました（令和3年11月21日開催）。

今回は2部構成で開催し、第1部は「環境」、第2部は「公園」をテーマとして、第1ステージは、藤沢市における環境・公園は何が問題か？何が課題か？について意見交換し、第2ステージは、藤沢市にとって望ましい環境・公園とは何か？について未来を検討し、第3ステージは、望ましい環境・公園にするために、具体的に何をすればいいか？を考察し、最後に総括を行いました。

この度、その結果を集約しましたので、趣旨をお汲み取りいただき、今後の藤沢市の参考としていただきたく、提出します。

2. Online カフェトークふじさわで出された意見のまとめ

（第1部）環境（湘洋中学校、藤沢総合高等学校、関東学院大学）

・藤沢環境憲章の制定

大まかなルールを作って、SNSやアプリなどを駆使しながら、市民も守りつつ、観光客も藤沢に対して、ごみを捨てない、守っていくようなルールを作る。

制定時の留意事項として、行政や議会だけで作るのではなく、市民も一緒に作り上げていくために、SNSなどで条文の内容を募集したり、パブリックコメントや、今回のカフェトークのような形で、市民から直接意見を集めることで作り上げていく。

・オンデマンドごみ収集システムの構築

現在多くの学生が出前の配達をするアルバイトをしているが、オンラインフード注文・配達システムのごみ廃棄・収集版として、ごみ回収をするアルバイト組織を作れないか。ごみが分別されなかったり、ポイ捨てされてしまう原因として、捨てるのが面倒ではないかという考えがあり、アプリ一つでごみを回収するシステムを構築する。

- **ごみ箱の拡充**

自動販売機横に設置されているごみ箱に、飲料以外のごみが捨てられるという問題について、予め飲料以外の可燃ごみなども廃棄できるように様々な種類のごみ箱を設置しておく。

- **海岸美化スローガン、インセンティブの設置**

水質汚染やプラスチックごみなどを改善するには市民・観光客の一人一人が意識することが大切であり、発信していく必要もある。スローガンやインセンティブの形で行政がサポートしつつ、若い世代が発信しやすくなる環境をつくり、地域住民が環境問題に対して取り組みやすくする。

- **海岸美化ポスターの設置**

ポイ捨て対策として、観光客向けにイベント会場などで呼びかけやポスターなどを設置することで啓発する機会を作る。

- **飲料だけを売る自動販売機の設置**

利用者はマイボトルを持参し、飲料だけを自動販売機から注ぐことでポイ捨て対策をする。

- **コスプレごみ拾いイベントの開催**

渋谷ハロウィンのイメージで、コスプレをしてハロウィンが終わった後にごみ拾いをするといった、楽しいイメージのあるごみ拾いイベントを開催する。

(第2部) 公園（亀井野小学校、鵜沼中学校、市内在住高校生、関東学院大学）

- **自動販売機の設置**

温暖化による猛暑対策として、公園内に自動販売機の設置を。電力については、ソーラーパネルなど、エコな電気を供給できるようなものの設置を。

- **ボール遊びができる、柵のある公園の設置**

ボール遊びに特化した公園として、ボールの飛び出し防止柵、高いネットをつくることで安全の確保を。

- **あらゆる年代が遊べる遊具の設置**

ある程度年齢が行くと、低年齢向けの遊具では遊べなくなってしまうので、安全面に配慮しつつも中高生向けにスリルある遊具の設置を。

- **様々な人が使える公園の拡充**

障がいの有無にかかわらず利用できる遊具の設置や、利用可能時間の分配や棲み分けといった対策を。

- **自然を大事にした公園の設置**

SDGsを意識した遊具であったり、小中学校で植樹を行う、天然芝を使った、自然を大切にしたい公園をつくる。

以上